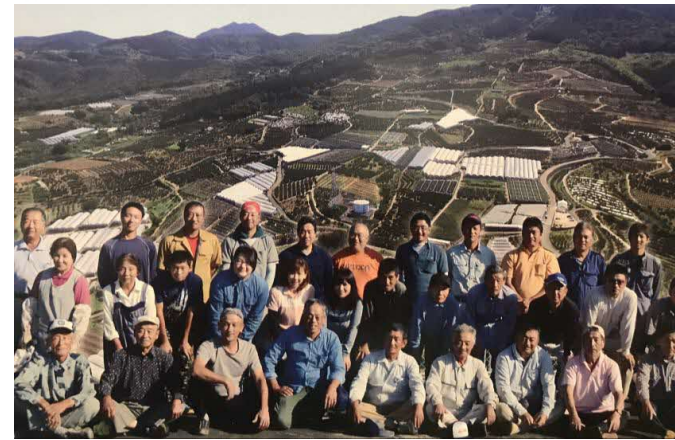


⑨吉次地区(熊本市北区)

未来へつなげ「宝の山」 はばたけ！吉次
～細やかな基盤整備による高品質みかん生産～

ビジョン策定年度：平成29年度 目標年度：令和3年度



1. モデル地区のプロフィールと現状

◆農業者に関する状況

(平成29年度)

| | | |
|-------------|------|-----------------|
| ・総戸数 | 34戸 | 吉次パイロット組合員 |
| ・総人口 | 143人 | |
| ・農家戸数 | 34戸 | 植木町:28戸、河内町:2戸、 |
| ・農業者数 | 92人 | 松尾町:1戸、天水町3戸 |
| ・担い手数 | 18人 | |
| ・65歳以上の農業者数 | 35人 | 農業者に占める割合:38% |

◆農地に関する状況

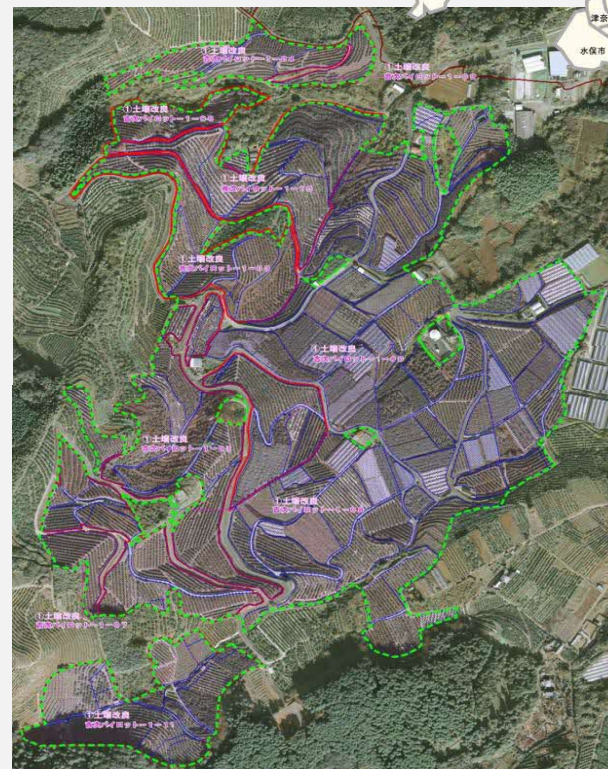
| | |
|----------|------|
| (1)面積区分 | |
| ・畑(樹園地) | 45ha |
| (2)作付区分 | |
| ・畑(樹園地) | みかん |
| (4)耕作放棄地 | |

◆基盤整備に関する状況

| | |
|---------|--------------|
| (1)ほ場整備 | 44ha整備済 |
| (2)耕作道路 | 幅員が2.0m未満 |
| (3)排水 | コンクリート水路 |
| (4)用水 | 井戸ボーリングによる取水 |

◆集落の現状

- 当地区は、昭和42年にパイロット事業により山林から樹園地へと開墾を行い、その後平成19年に県営畑地帯総合整備事業により、高畝造成・農道整備・パイプライン整備等がなされ、労力の低減による作業効率が高い樹園地である。
- 当地区の主要品目は、温州みかん(露地・ハウス)であり、その他雑柑(不知火系統)・ブドウ・スモモが作付されている。
- 当地区では34戸が耕作しており、農業者の約4割が65歳以上である。今後、高齢化の進展に伴う担い手の不足が懸念される。
- パイロット事業実施後、吉次パイロット組合において施設の維持管理、各種研修活動等を行っている。



緑の点線:モデル地区の範囲
赤の実線:平成30年度 土壌改良対象農地

2. ビジョン策定のプロセス

(1)ビジョン検討のスタートに向けて

当地区は、昭和42年にパイロット事業により山林から樹園地へと開墾を行い、その後平成10年に県営畑地帯総合整備事業がスタート。平成19年に高畝造成・農道整備・パイプライン整備等がなされ、労力の低減による作業効率が高い樹園地が形成された。

パイロット事業実施時に吉次パイロット組合が設立され、施設の維持管理、各種研修活動等を行っている。平成10年の担い手育成事業により、後継者の育成を進めつつ、熊本県の品種である「肥のあかり・肥のさやか・肥のあけぼの」などの温州みかんを生産、全国各地に出荷している。このようなことから、中山間農業モデル地区支援事業以前から地区のまとまりはあった地域である。

しかし、基盤整備を行ってから10年が経過している。ここ数年、想定外の自然災害による排水や畝の崩れがあり、それらの小規模修復を行っていた。

(2)協力体制

吉次パイロット組合が当事業の構成員の土台になっている。組合員34名のうち18名のほ場が当事業に該当し、具体的な取り組みを行っている。

ただ、当事業に該当しなかった区画・農家も、共通部分の農道、傾斜地、法面の管理などには関係するのと、「全員で吉次地区全体を整えていく」という意識を持っているため、該当18名だけではなく、全員で協力している。

(3)検討の経緯

検討にあたっては、まず、パイロット組合で吉次地区の課題をまとめ、地区全体に対して説明会を行った。

当事業に該当しない農家を含め、全体で意見を交換した。意見を収集し、役員でさらに詰めていった。



吉次パイロット組合



事務所にて地域の現状や将来像について検討

(4)ビジョンの合意形成

当事業の説明会・意見交換会の後は、役員会や共同作業(草刈り)など、集会有る度に話し合いを行った。パイロット組合の中で「今回の事業に該当する区域と該当しない区域」で二分されるのは避けたかった。そのため「将来的なことを見据えて、みんなでちゃんとしていこう」と意識をすり合わせていった。どこか一部が荒れるとそこが地区全体に影響を及ぼすので、「当事業は地区全体の課題でもある」という意識をみんなで高めていった。

基盤整備・造成をしておけば、担い手や借り手も引き続き確保できる。そのため組織としては「この方針で進めるので協力してほしい」と全体に伝えていった。地区のまとまりが50年以上あり、チームワークもとれていたため、最終的な合意形成は先代からの繋がりに助けられスムーズに行えた。

◆モデル地区農業ビジョンの検討の流れ

| 番号 | 日付 | 場所 | 話し合いの内容 | 参加人数 |
|----|-----------|-----------------|---|------|
| 1 | H29.11.1 | 組合事務所 | 市から役員が事業概要の説明を受け、当地区の現状や将来像、農業活性化の方策について打ち合わせを行った。 | 4名 |
| 2 | H29.11.17 | 組合事務所 地区ほ場 | 地区のほ場を回って現状を改めて確認し、農業活性化の方策について対象とする区域や取組み内容等について協議した。 | 5名 |
| 3 | H29.11.22 | 熊本市北区役 所会議室 | 県・市から事業概要の説明を受け、当地域の現状や将来像について共通認識を整理するとともに、当ビジョンに示した農業活性化の方策に取り組んでいくことを決定した。 | 16名 |
| 4 | H29.12.8 | 組合事務所 | モデル地区ビジョンの作成に向けて、各項目について記入する内容の方向性を確認し、各種データの収集方法やビジョン検討のスケジュール等について話し合った。 | 6名 |
| 5 | H30.2.9 | J A 鹿本 南部選果場 | 組合員に対してビジョンの素案を示し、各項目について検討を深めつつ確認を行い、ビジョンとして決定し、後日市に提出することとした。 | 19名 |



北区役所にて事業の説明を受ける



地区のほ場を回り、現状を確認

3. 集落の「課題」と「将来像」

◆集落の課題

- 基盤整備から10年以上が経過しており、豪雨等により土壌の流亡や畝の崩壊が発生し、果樹の樹勢が低下している。このため、土壌改良、排水整備を実施する必要がある。
- 現状では担い手がおおむね確保されているが、組合員の高齢化に伴い離農される農家の増加が見込まれるため、今後、認定農業者・認定新規就農者等、担い手への農地集積を加速化させる必要がある。
- 先進的な栽培技術の導入による、高品質な果実の生産体制を構築し、若手農業後継者の人材育成を図る必要がある。
- 温州みかんについては、極早生品種が植栽面積の大部分を占めており、収穫・選別作業が短期間に集中しているため、労力の分散を図る観点から、早生品種や普通品種への改植を推進する必要がある。
- イノシシ等の鳥獣被害が増加しているため、地域一丸となった話し合いによる講習会への参加、電気柵・金網柵の設置等の対応について検討する必要がある。

◆集落の目指す将来像

- 高品質果実の安定生産による農業所得の向上。
- 農業後継者が安心して農業を継げる足腰の強い産地の確立。

◆成果目標

- 高単価生産に向けた栽培技術(※)を20ha以上導入する。
- ※品種更新、高畝栽培、シートマルチ栽培、植物成長調節剤(フィガロン剤等)の活用のうち1つ以上

(1)課題認識に向けての進捗

1)高品質果実の安定生産について

[基盤整備]

土壌改良として平成30年に、たい肥・石灰系資材の投入および赤土・畝補修などを実施した。

[高品質果実に向けた取り組み]

高畝栽培面積22haを更新した。また、収穫・選別作業の平準化のために、メインの極早生品種から早生品種・普通品種への改植を進めており、平成30年から令和2年1月までに約3haの改植を実施した。

2)担い手対策について

認定農業者の更新や後継者の育成を通じて担い手を確保しつつ、土地利用調整(集積)を進めている。

3)鳥獣被害対策について

地域の猟友会と連携して、若い後継者2人が狩猟免許を取得。イノシシ防止対策として、補助事業を活用して電柵等を設置。

(2)新たな課題

基盤整備については、成果目標数値としては達成した。しかし、ここ数年は想定外の自然災害に見舞われることが多いため、今後もきめ細かに小規模補修をしていかななくてはならない。

4. 取り組み状況

[ビジョンの内容]

(1)高品質果実の安定生産

◆基盤整備の実施

→土壌改良として、たい肥・石灰系資材の投入及び、赤土・畝補修等を実施する。

◆高品質果実に向けた取り組み

→早生、普通を中心とした優良果樹品種への改植、高畝栽培、シートマルチ栽培、植物成長調節剤(フィガロン剤等)の活用等に取り組み、高品質果実の安定的な生産体制を構築する。

(2)担い手対策

◆担い手への農地集積

→認定農業者等、担い手への農地集積を促進するため、徹底した話し合いによる土地利用調整を図る。

(3)鳥獣被害対策

◆鳥獣被害軽減に向けて、地域の猟友会と連携した講習会を実施する。

[各項目の取り組み状況]

(1)高品質果実の安定生産について

◆基盤整備の実施についての状況と成果

土壌改良は平成30年に実施した。しかし、ここ数年は想定外の自然災害に見舞われることが多いため、今後も小規模補修をしていかななくてはならない。引き続き維持していくための努力が必要。他の交付金を活用しながら、小規模な基盤整備を進めていく予定である。

みかん畑は傾斜があり、一回整備を行ったから終わりではない。後継者を育成し、稼げる農家を目指すためにも基盤整備は引き続き行っていく。小さな崩れから大きな問題に発展するため、早めに補修、こまめにメンテナンスをしていくことが今後の課題である。

◆高品質果実に向けた取り組みの状況と成果

[高品質果実に向けた取り組み]

高畝栽培面積22haを更新した。また、収穫・選別作業の平準化のために、メインの極早生品種から早生品種・普通品種への改植を進めており、平成30年から令和2年1月までに約3haの改植を実施した。

吉次のメイン作物は極早生品種。作業ピークをできるだけ平準化するために、早生品種・普通品種への改植を進め、所得安定を目指す。

[シートマルチ]

着色促進と糖度アップのためのシートマルチの導入も進めている。現在、15戸(当地区における露地栽培面積の約7割)が導入している。マルチは3年ほどで劣化し効果が落ちるため、引き続き更新していく必要がある。ただし、経費がかかる分、それに見合った値段で生産物を購入してくれる販路を確保していくことが課題であり、目標。

[フィガロン]

植物成長調整剤フィガロンの導入を進めている。現在全戸で実施中。しかし高額な資材であるため、販売価格への反映が課題。

シートマルチやフィガロンを使用することで、全国的に長雨が続いた年でも、吉次地区のみかんは他産地よりも糖度が1度程度高く、品質的に高評価を得ている。

また、糖度アップのためには水はけのいい土地であることが条件で、園地改造や配管も行った。イスラエル方式の点滴かん水でかん水できるようにしている。

◆解決すべき課題と今後の方針

基盤整備については、自然災害の度に小規模補修をしていかななくてはならない。また、長雨や自然災害が続いた年は全国的に「今年のみかんは甘くない」などのイメージが付きやすく、みかん業界全体に悪影響が出る。そのため、天候にある程度左右されず、他の産地よりも糖度が1度でも高品質の温州みかんを生産できる環境を整えていく。



シートマルチの設置



吉次地区の温州みかん



過去の基盤整備で、機械での作業が可能になった

(2)担い手対策について

◆取り組みの状況

平成10年の担い手育成事業により、収益の上がる農家を目指し、若手の育成に取り組んでおり、その中で青年部もできた。自然発生ではなく、パイロット組合が若手に促してできたものである。

年齢層は30歳前後で13人。全員、農業後継者。生産や販売の情報交換の場ともなっている。

また、青年部は様々な研修に参加をしており、のびのびと意見が言える雰囲気がある。

◆取り組みの成果

当事業で、電動剪定バサミを2台購入した。高額だが、力の弱い女性や高齢者も作業しやすくなるため、導入する価値がある。

予約制で貸し出しを行い、組合全体で利用している。

◆解決すべき課題と今後の方針

収益の上がる農家、作業効率のいい農業を目指すことが、担い手育成の要となっている。

そのためには今後も小規模な基盤整備を行い、機械などでの作業効率化や、高品質果実への取り組みを引き続き行っていかなければならない。何よりも「土地を荒らさないこと」を目指したい。

平成29年のパイロット組合創立50周年のタイミングで、景観作物の作付けにも力を入れており、視察などで外部から来られる方から好評を得ている。地区の景観を整えることで、地区全体・若手の意識も高まっていくと期待している。



吉次地区の青年部



当事業で購入した電動剪定バサミ

(2)鳥獣被害対策について

◆取り組みの状況と成果

電気柵等を設け、イノシシなどの侵入を防止している。今のところは人間に対する被害は発生していないが、イノシシが増えてくると作物被害はもちろん、人身事故の可能性も高まる。

現在、若手2人の農家ハンターがいる。農家でありながら狩猟免許をとって、自ら罠をしかけて鳥獣被害を防ごうという試みを進めている最中。

◆解決すべき課題と今後の方針

地元の猟友会と連携して、農家ハンターの育成にとりかかっているが、イノシシは学習能力が高く、なかなか罠にかからない。イノシシは繁殖力が高いため、このままだとどんどん頭数が増えていく。

自力で鳥獣対策を行っていくが、行政にも中山間地の鳥獣被害防止対策に力を入れてもらいたい。



農家ハンターたちと、捕獲されたイノシシ

5. まとめ:成果と今後の展開方向

◆成果目標

高単価生産に向けた栽培技術(※)を20ha以上導入する。

※品種更新、高畝栽培、シートマルチ栽培、植物成長調節剤(フィガロン剤等)の活用のうち1つ以上

(1) 全体的な成果

①高単価生産に向けた栽培技術20ha以上を導入！

平成30年に実施、目標値は達成した。

また、電動剪定バサミを2台購入。収穫後の枝切り作業に活用。さらなる作業負担軽減を目指す。



(2) 今後の展開方向

①自然災害への対応

基盤整備を行っても、自然災害の度に小規模補修をしていかななくてはいけない。また、長雨や自然災害が続いた年は「今年のみかんは甘くない」などのイメージが付き、みかん業界全体に悪影響が出る。そのため、天候にある程度左右されず、他のみかんよりも糖度が1度でも高いものを作れる環境を整えていくことを目指さなくてはならない。

②植物成長調整剤フィガロンについて

根の生長を抑制するため、作物の健康状態やその年の天候に応じて適切に使用することが必要。また、高額なため、生産物の販売価格への反映も重要な課題である。

③シートマルチについて

導入・実施を進めているが、シートマルチは3年ほどで劣化し、効果が落ちるため、継続的に更新する必要がある。

④鳥獣被害対策について

地元の猟友会と連携をとり、担い手2人が狩猟免許を取得。電柵も設置しているが、イノシシの繁殖力が高く、追い付いていないのが現状。作物の被害報告が増えている。今後は作物被害だけでなく、人間への被害(事故など)も想定できるため、行政と連携して鳥獣被害対策を行っていきたい。

農家ハンター育成や電気柵設置など、地区としても鳥獣被害対策を積極的に進めているが、イノシシの頭数は増える一方である。柵作りは費用がかかるため、すべての区画を網羅することは難しく、抜けている箇所がある。

鳥獣被害については、他の事業を活用しつつ対応していきたい。行政と連携しながら対策していくのが理想である。